

S	M	T	W	T	F	S
						1 2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						

見てみよう！歴史地震記録と

旬のあいち < 8月 >

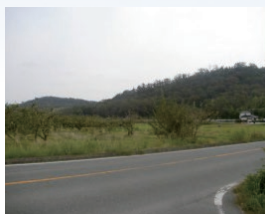
◆ 照山

所在地：豊川市金沢（豊橋市賀茂）

交通：JR 飯田線「三河一宮」駅 東約 3km

照山は、豊川市の東の金沢町に位置する標高 124m の低山です。

東名高速道路によって分断された南側（豊橋市賀茂町）は照山城跡とされており、加納寺の周辺に土塁跡などの遺構が残されています。



照山城は、駿河に攻め入ろうとする武田信玄を討つために家康が遠江へ出陣した際に、賀茂神社に戦勝祈願に参詣した折に立ち寄ったとされ、また長篠出陣の際にもこの城に止宿したといわれています。

「三河・遠州のスーパー低山ハイキング(風媒社、2002年)」にも紹介されており、以前は豊橋市の健康の道のウォーキングルートに照山も含めたコース設定があったようです。

この照山に、天文年間(1532～1555)の津波(高潮・洪水)により豊川河口部に立地する複数の社寺が漂着した、という言い伝えがあります。

2011年の東日新聞では、天文8年及び9年の大津波で、馬見塚神社(馬見塚町)、進雄神社(横須賀町)、満光寺(瓜郷町)、八所神社(大村町)の4つの社寺の建物が流出し、うち3つは「賀茂の照山」まで流れ着いた記録があることが記事となっています。

2003年の東愛知新聞では、そのほかにも湊町神明社(豊川河口)、日吉神社(下五井町)、中ノ森の神明社(川崎町)がそれぞれ照山へ流れ着いた、との言い伝えが残されてい

ることを紹介しています。

ところで、愛知県災害誌によれば、天文年間に発生した地震は天文6年12月6日のもののみで、津波が発生した記録はありません。一方で、この間、暴風雨等による水害(高潮・洪水)は9回あり、寺院・神社が津波被害を受けた時期(天文8～9年)には暴風雨による水害が多く発生したとの記録があります。また、神社の由緒にも地震をうかがわせる記述はありません。ですが、『果たして大地震以外で、これほどの津波(神社や寺が複数流されるような津波)が生じるだろうか。(東日新聞)』記録に残されていない地震や津波がこの地域を襲っていたのかも知れません。

なお、高速道路を挟んだ南東側には、石巻山麓の西川地区にいた豪族・西郷氏が築城した西川城の城址があります。西郷氏は長く徳川家康に仕え、家康の最愛の側室とも言われ2代将軍秀忠の生母(実の母)となった「西郷の局」を出した家系です。

照山周辺は自然が豊かなところで、賀茂神社近くの賀茂しょうぶ園は、東三河有数のしょうぶ園で、6月には花しょうぶまつりが開催され、多くの観光客でにぎわいます。



また、西川城址は別名「カタクリ山」と呼ばれ、城址の斜面には毎年春になると清楚なカタクリが咲き誇り、多くの人に親しまれています。



◆ 地震にまつわる碑や史跡には、実際にその地域で起こったことが記録されているだけでなく、当時の人たちの思い(二度と被害を繰り返さないように、など)が込められています。碑や史跡の前では、地震が実際にこの地域で起こるということを実感しているだけでなく、そうした先人たちの声に耳を傾け思いを巡らせ、身の回りの備えにつなげ、これからの防災に活かしていきたい。



◆ 照山の周辺には…

● 平井八幡社

所在地：豊川市平井町堺畑

交通：JR 東海道本線「西小坂井」駅南約 1km

天文年間の初期(1532頃)の大洪水によって社殿が流出し、加茂の照山の麓に流れ着いたと伝えられています。



● 大村八所神社

所在地：豊橋市大村町横走

交通：JR 飯田線「下地」駅東約 3.5km

神社由緒には、大宝元年(701)大村神社として創建されましたが、天文8年(1539)大津波により流失したことが記されています(この天文年間の大津波は、高潮であると考えられます)。その後天文20年(1551)、八王子社として再興されています。



◆ 詳細な地図は『歴史地震記録に学ぶ 防災・減災サイト』(<http://www.pref.aichi.jp/bousai/densho/index.html>)をご覧ください。

★ 豊川手筒まつり

豊川手筒まつりは、毎年8月の第4土曜日に、豊川公園で開催されます。市内各連区の神社に伝承されている伝統の手筒煙火が一堂に会して放揚され、約3時間にわたって数百本の手筒煙火が披露されます。

煙火は、五穀豊穡や無病息災、家運隆盛、武運長久を祈る各地区の奉納行事として、また、若者の勇気の証や成人となる門出の儀式として、脈々と民俗文化として伝承されてきたもので、各種のまつりなどの祭礼行事のほかに、校区や町内を単位とした形でも「手筒祭り」の伝承が図られています。

手筒づくりは竹取りから始まり、1ヶ月程の時間を掛けて、竹の「節抜き」「油抜き」「筒巻き」、火薬の「仕込み」「詰込み」など、いくつかの行程を経て完成します。手筒煙火は、火薬を詰めた筒を脇に抱えて放揚するもので、一つ間違えば命すら落しかねません。従ってひとつひとつの作業には全神経を集中し、命掛けでの仕事となります。



8月のあいちの花

平成26年8月のあいちの花はクルクマです。クルクマはショウガやウコンの仲間、原産地は東南アジア、初夏から花が咲き、日本では主に観賞用に切り花や鉢物として用いられます。色の美しい部分はほうよう苞葉で、苞葉の中に花が咲きます。



代表的な品種としては「シャローム」が有名です。

● ブレイクタイム ●

♪ 豊川いなり餅

おもちの入った油揚げを、油で揚げてさらにそれを焼き、秘密の味付けで作る「いなり餅」は、豊川の新名物として売り出されている豊川いなりうどんにもものっているもので、柔らかいおもちの食感と、サクッとしたいなりの食感が何とも新鮮です。豊川いなり表参道で1個100円でお試しいただけますので、豊川稲荷参拝の際には、ぜひお試しください。

『豊川いなり表参道』

所在地：愛知県豊川市門前町31

交通：名鉄豊川線「豊川稲荷」駅、JR飯田線「豊川」駅 徒歩3分



◆ この地域の地震・津波に関する碑・史跡、資料・体験談集、地域に残る古文書、研究資料、郷土史研究者・団体などの情報がありましたら、gensaisan2014@gmail.com まで情報をお寄せください。

◆ 県内の歴史地震記録をホームページで紹介しています。各地の碑や史跡等にご興味をお持ちいただけましたら、『歴史地震記録に学ぶ 防災・減災サイト』(<http://www.pref.aichi.jp/bousai/densho/index.html>) をぜひご覧ください。

(発行：減齋の会(仮称)・名古屋大学減災連携研究センター 平成26年8月)